

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
飛騨市	古川東部地区 (向町、三之町、中央、壺之町、中気多、 栄、殿町、上気多、下気多、宮城)	平成24年8月1日	令和3年3月18日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	95 h a
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	90 h a
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	18 h a
i うち後継者のいない農業者の耕作面積の合計	9 h a
ii うち後継者のいる農業者の耕作面積の合計	9 h a
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	78 h a
(備考) ④の耕作面積は、古川地域全体の面積である。	

2 対象地区の課題

<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地面積が狭小である ・区画が小さいため、担い手にも預けにくい ・面積が小さく、形状も悪い場所は担い手も受けてくれない ・圃場へ出入りするスペースが小さいため大型機械が入れない ・農地が点在しており、営農効率が悪い ・畦畔が大きく傾斜が強いため草刈り作業が大変である ・家には後継ぎがいても、農業を継ぐ気がない ・耕作者が高齢化しているが、後継者はいない ・機械の買い替えや作業委託にお金が必要にもかかわらず、今の農業では儲からない ・機械が高く、購入してまで続けられない ・耕作できなくなった場合、どこに、だれに相談すればいいのかわからない ・耕作放棄地が増えている

3 対象地区内における課題に対する取組

<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集約、集積は重要であり土地改良により区画拡大の検討を行う ・土地改良着手までの約10年間でどのように農地を守っていくか検討していく ・土地改良も解決策の一つではあるが、小規模基盤整備事業を活用し耕作しやすいように変えていく ・農地の入れ替えを行い、地域の担い手に集約していけるように地域で協力していく ・担い手の作業条件をよくしてやりやすく、面積をこなしてもらえらるような環境づくり ・農業を続けたい方は少しでも長く、農業を続けられない方は担い手が耕作しやすい環境を整備していく ・家族間の話し合いを増やすなど農業や農地について語っていく ・農地等に関する問題が生じた場合は、改良組合長が相談窓口となり市につなぐような仕組みづくり
--

4 3を実現するために必要な取組に関する方針

- ・土地改良は、担い手の育成、集落営農組合の組織化など時間をかけて話合いの積み重ねが必要であるため、今後も話合いを継続していく
- ・担い手の入れない場所については、地区として年に1回は話合いの場を設けて、農地維持の方法について検討していく